

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例

①市区町村名	川西町
②人口（※1）	17,025 ()
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上 5,184（30.4%） 75歳以上 3,235（19.0%） ()
④取組の概要	県立置賜農業高等学校のプロジェクト学習の一つの取り組みで、特産品の一つ紅大豆を利用した地域おこしである。高校生とお年寄りの交流を目的に平成23年度は一人暮らしの高齢者に紅大豆弁当を宅配し、平成24年度は高校生が作った紅大豆料理をバイキング形式で高齢者と会食する「寄っとこえバイキング」を3回行った。
⑤取組の特徴	本町の在来作物である紅大豆の普及のため紅大豆を用いたスイーツの開発、製造、販売から始まった高校生のプロジェクトが、町の課題となっているひとり暮らしや高齢夫婦世帯の増加等に着目し「紅大豆で地域に笑顔」を目標に活動している。
⑥開始年度	平成23年度
⑦取組のこれまでの経緯	①□紅大豆の特産品化のためスイーツの共同開発と製造 ②一人暮らしの方に「紅大豆弁当」を宅配し高齢者との交流を図る。 ③紅大豆料理のバイキング形式会食会を3回開催。
⑧主な利用者と人数	一人暮らしや高齢夫婦世帯、普段交流の少ないお年寄り等 弁当宅配10人 バイキング90人
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	実施主体：県立置賜農業高等学校紅大豆本舗プロジェクト 関連団体：川西町紅大豆生産組合・JA山形おきたま女性部・料亭「喜楽」・えきまちネット小松
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	町の高齢化の現状についてのレクチャー 対象者の選定 民生委員への周知と対象者選定の依頼 一次予防事業の消耗品費として20,000円（平成24年度）食育関連一般財源10,000円（平成24年度）
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	
⑫取組の課題	バイキング形式は参加者には大変好評であったが、高校生参加者総勢60人分の料理が大変であり費用もかかった。
⑬今後の取組予定	「紅大豆カフェ」として高齢者のサロンを月2回定期的に開催していく。 町としても町民への周知等の支援を行う。
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	健康福祉課内 川西町地域包括支援センター 0238-46-5511

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

地区全世帯加入のNPO法人による地域づくり(川西町)

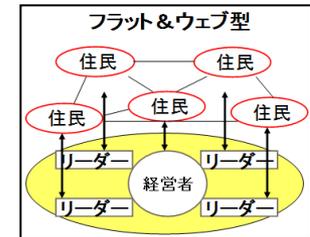
<NPO法人きらりよしまネットワーク>

発端は「地区公民館の公設民営化(公民館機能の見直し)」

○吉島地区の全世帯(746戸)が加入し設立(H19)

NPOの「経営者・リーダー」が住民に働きかけるのではなく、NPOの中に住民がリーダー・経営者として参画することを狙いとして、「全世帯加入」とした

⇒「住民総参加の地域づくり」⇒フラット＆ウェブ型



【「住民総参加の地域づくり」に向けた人材育成】

○幼少期から住民ワークショップ等の活動に参加

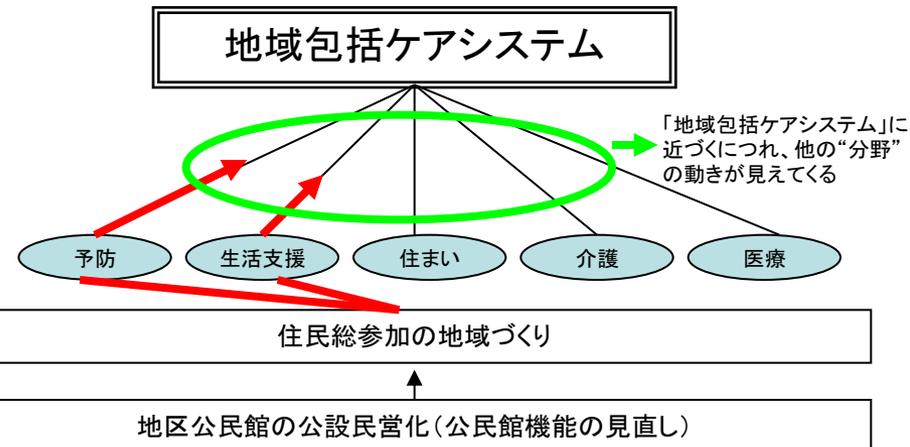
○「人材育成＝若者育成」ではなく、高齢者も貴重な人材(吉島地区は30.6%という高い高齢化率のため、若者だけでは事業継続が困難)

○計画的な住民のスキルアップ(右図)



主な取組み

	概要	きらりよしまの意識	地域包括ケアシステムの分野
よしま燦燦塾	小学校における児童との交流(そば打ち等)や健康教室等	生涯学習 生きがい 健康づくり	予防
産直事業	地元のコンビニに産直を設置し販売	所得向上 生きがい 地産地消	予防
ふれあいサロン	高齢者の交流の場	生きがい	予防
買い物代行 見守りサービス	地域の商店・産直等で注文された物を仕入れ、サロンや介護世帯等に配達	生活支援 見守り 地産地消	生活支援
要援護者 サポーター	「日中サポーター」と「夜間・休日サポーター」制度を設け、安否確認等	生活支援 見守り	生活支援



地区公民館の公設民営化が「住民総参加の地域づくり」のきっかけとなり、高齢者福祉の取組みにつながり、地域包括ケアシステムへと向かっている

取組の経緯

(実施主体)

特定非営利活動法人 きらりよしじまネットワーク

(背景・地域の課題)

現在の吉島地区の高齢化率は約31%であり、少子高齢化は更に加速化している。

住民自治の運営においても、リーダーの高齢化や後継者不足は深刻なものがあつた。

そのような中で、高齢による運転免許の返納や、足腰が弱い等の健康上の理由で、買い物をするのが困難な世帯、家族の介護等でなかなか買い物に出歩けない世帯も増加の傾向にある。また、老人クラブへの加入者も年々減少し、(まだ現役だという人も増えていることもある) 高齢者の社会参加への価値観も変わってきている。

一方、ある程度の年齢に達すると、地域社会の一線から退くことで後継へのつながりを取ってきた時代背景はあつたが、余生の生きがいがづくりや、気軽に話せる仲間づくりは高齢者が自発的かつ主体的に取り組むといった活動にはつながってこなかった。

地域の中で高齢者が自分らしく豊かに暮らすためには、住民同士のコミュニケーションを図り、安否の確認や事故の防止につなげてゆくことが重要であり、人と人をつなげるつなぎ役(黒子)となるキーパーソンの役割は大きい。そのためには、人生のステージ別におけるリーダーの育成と、高齢社会へ向けた将来の危機感を夢に変えていく住民レベルで行える地域福祉の取り組みを定着させていくことが課題となる。

(取組のポイント)

年間4~5回の住民ワークショップ「新よしじま物語」の中で、高齢者もワークに参加し、暮らしの困り事や将来の不安を解消するための課題解決の話し合いが持たれているということ。その話し合いのファシリテーターを地域の若者が努め、高齢者の声や子育て中の保護者の声をきいて、事業の企画立案につなげていること。

高齢者がワークに参加し、意見やアイデアを発することによって、いわゆる「与えられるサービス」から「つくるサービス」「参加するサービスが」具現化されてきている。

取組に係る財源

基本的には会員の会費が基礎財源になるが、事業ベースでの補助金や委託金を充当している。経済活動から生まれる収益もまた、事業の経費として活用している。参加するにあたっては受益者負担と、企業と連携することにより参加しやすい安価提供が可能になっている。

取組に必要なネットワーク・社会資源

きらりは、全世帯加入のNPO法人であるため、部会構成の中でネットワーク化されているが、事業の維持、継続のために企業や医療機関との新しいネットワークの構築を模索している。また、地域資源を活用した高齢者の、新しい生きがいを見出すための就労場所の確保については今後3年の計画の中で具現化していく。

取組の効果

高齢者が地域活動に参加することにより、新しい出番の創出が出来たことは、精神的な利益と物理的利益の両面で効果が出ている。家庭の中でも高齢者が元気に地域活動に参加したり収益を上げることによって、家庭内でも理解が得られるようになってきている。

また、高齢者の元気づくりに関わる地域の若者は、実際に感謝の声や励ましの声をかけてもらえることによって、使命感や責任感が醸成されてきている。

地域の中で認められ、活動を理解してもらえるということは若者にとって、持続可能な地域づくりに参加するためのエネルギーに変わってきている。

今後の展望・課題

きりりは全世帯が加入する NPO として地域内協働が振興されているが、外に依存するのではなく、地域内の人、モノ、産業、文化等を探し、住民の内側から生まれ出てくる愛郷心を育み、生活に根ざした事業を今後も展開していく。

しかし、全てを NPO の活動だけでは補完できないため、元気な住民活動の新しい人材や、企業、大学等とのつながりを重視し、ネットワークを拡充して行く必要がある。

併せて、外からの多様な人材や資源を受け入れ、地域の担い手と一緒に地域を愛するリーダーを育てる。

行政との関係では、地域の住民が主体的に地域包括ケアシステムを構築していく過程の中で、どのような支援策があるかを明確にし、地域の中でゆるやかに参加できるケアネットワークの構築と、それをコーディネートできるソーシャルワーカーの育成を施策として実現していくことは急務である。また地方自治体職員のスキルアップも含め、中長期のプロジェクトとして計画化し、包括支援センターの体力強化は必須である。

岩手県遠野市宮守町行政区長会
 視察研修資料
 2013. 10. 21



NPO法人 きらりよじまネットワーク

町と吉島の概要

【川西町】

- ・面積 166.46Km²
- ・人口 約17,000人
- ・世帯数 5,268戸
- ・町の花 ダリヤ
- ・町の文化人 井上ひさし

【吉島地区】

- ・面積 15.72Km²
- ・人口 約2700人
- ・世帯数 746戸
- ・自治会 22
- ・公民館 19
- ・寒河江善秋のふるさと



川西町の公民館事情

地区の動き

2002年

2004年

各種団体の見直しとNPO法人化の提案
地区計画策定の提案

2005年

NPO法人化に向けた機構改革着手
地区計画策定着手

2006年

2007年

社会教育振興会解散＝きらりよしじま設立
第一次地区計画完成

2009年

地域への提案「地域再生」

1. 役員の重複と高齢化
2. 余剰金
3. 会議の回数
4. 各種団体の横のつながり
5. 事業や活動のマンネリ
6. 若者の出番が少ない

提案

1. 会計の一元化
2. 合意形成一元化
3. 決定の迅速化
4. 計画に基づいた実践
5. 地域づくりの担い手育成

全世帯加入
2007年に設立

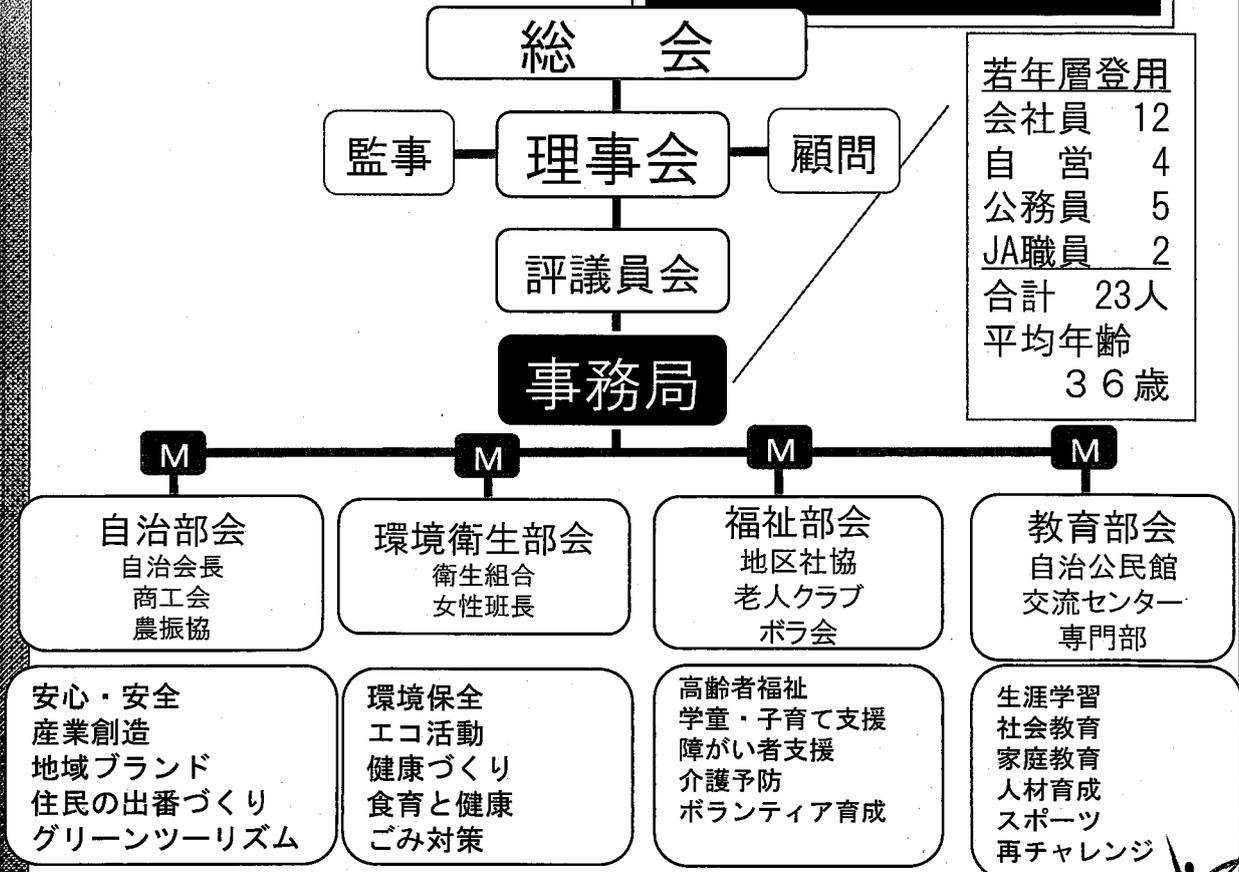
防犯協

地区協



NPO法人
きらりよしじまネットワーク

顔の見える地域づくり



30年の地区計画

将来像

「人が輝き、喜びを見出し、つくる楽しさを
 わかちあえる里」きらりよしじまの創造

基本目標

「歴史と文化でつなぐ、新しいくらしの創造」

地域づくりのテーマ

「forからwithへ」みんなが主役の地域づくり

目標

現状

2007 ~2011	2012 ~2016	2017 ~2021	2022 ~2026	2027 ~2031	2032 ~2036
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

地域経営の柱

- 住民総参加の地域づくり
(一人一役住民の出番づくり)
- 住民が主体性（責任・判断・負担）をもった地域の自律（本当に必要なものを見極め）
- 経営管理とビジネスを取り入れた地域づくり
(マネジメントとマーケティング)
- パートナーシップを担うコミュニティー
(対等に渡り合える質の向上と新たな公共を担う体力)

人の集約と協働

1. 地域内各分野の人材の集約と育成
2. 集約された人材を活用した事業展開
3. 事業でもたらされる収益による住民サービスの創出
4. 様々な地域内“協働”の実現と担い手育成

生まれる効果

住民負担の軽減
(行政との協働)

雇用・収入の確保
(企業・団体との協働)

地域産業の活性化
(農・商・工等との協働)

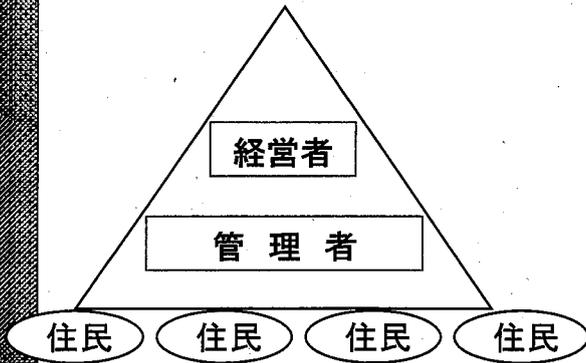
個々の技術・知識の向上
(学校・企業等との協働)

交流の活性化
(地域内外との協働)

開かれた地域づくり

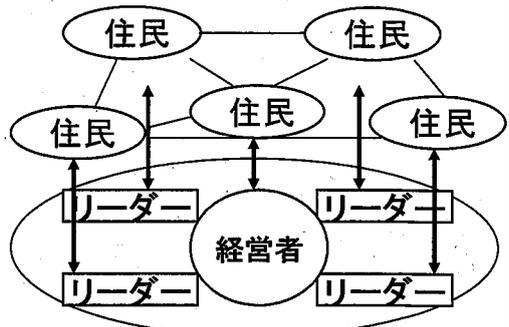
常に住民の意見に耳を傾け、
住民からのリーダー育成を心がける
活動をサポートする地域の人材ネットワークを
うまく活用する

ピラミッド型



住民に伝わりにくい(住民不在)

フラット&ウェブ型



住民の参画と実践の約束

つながる

「地縁」 + 「志縁」 = 「知縁」

昔ながらの
人のつながり



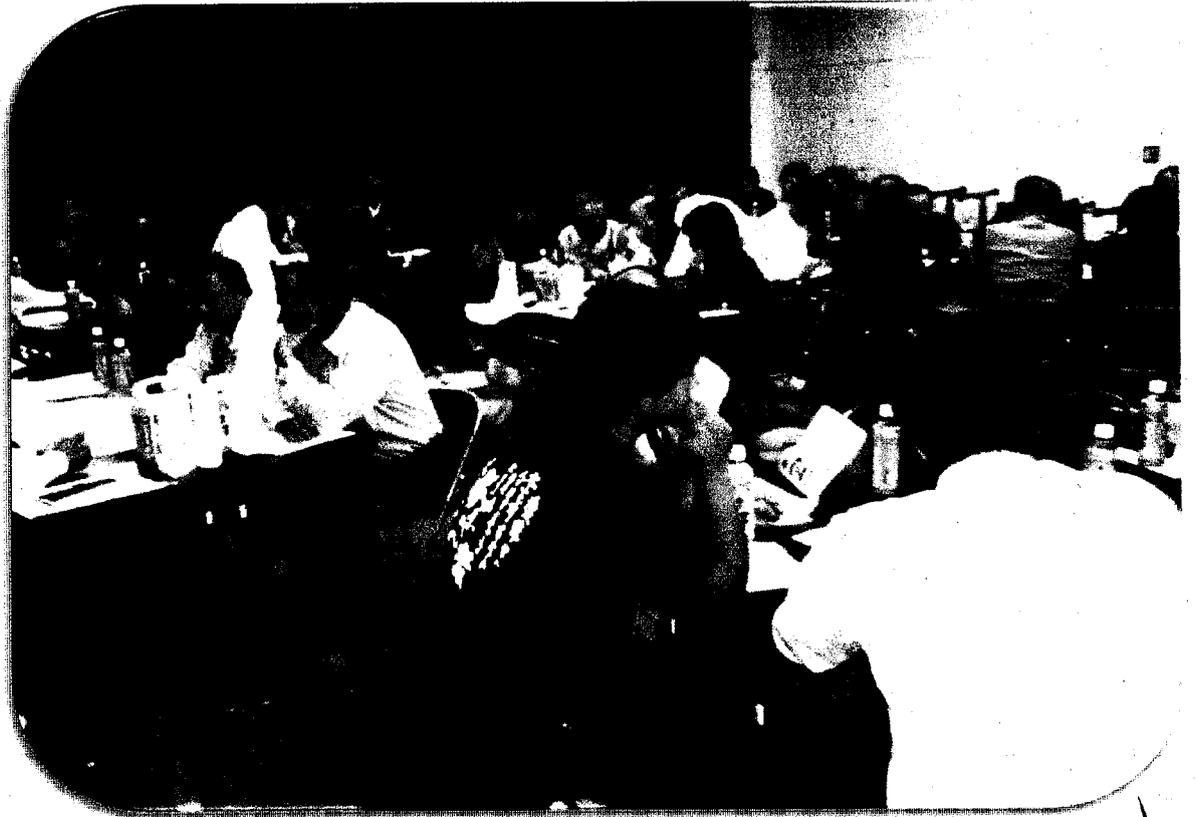
地域をもっと元気に
したい人のつながり

目的をもって組織を
立ち上げた人のつな
がり

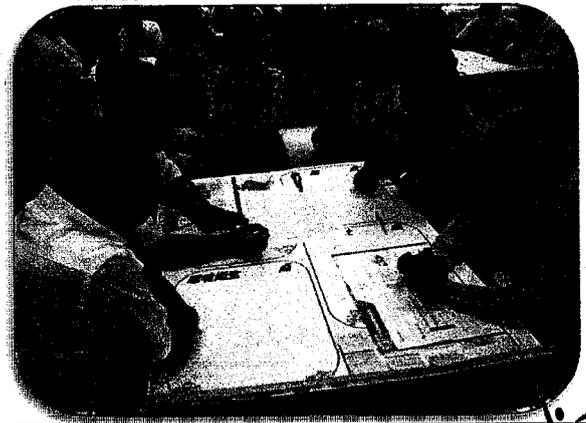
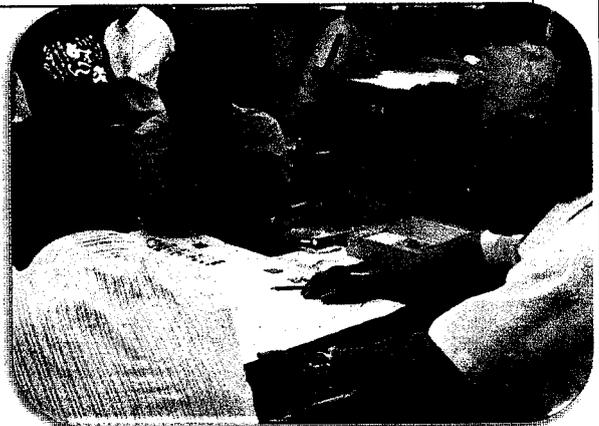


同じ目的を達成しようと知恵を出し合う
人のつながり

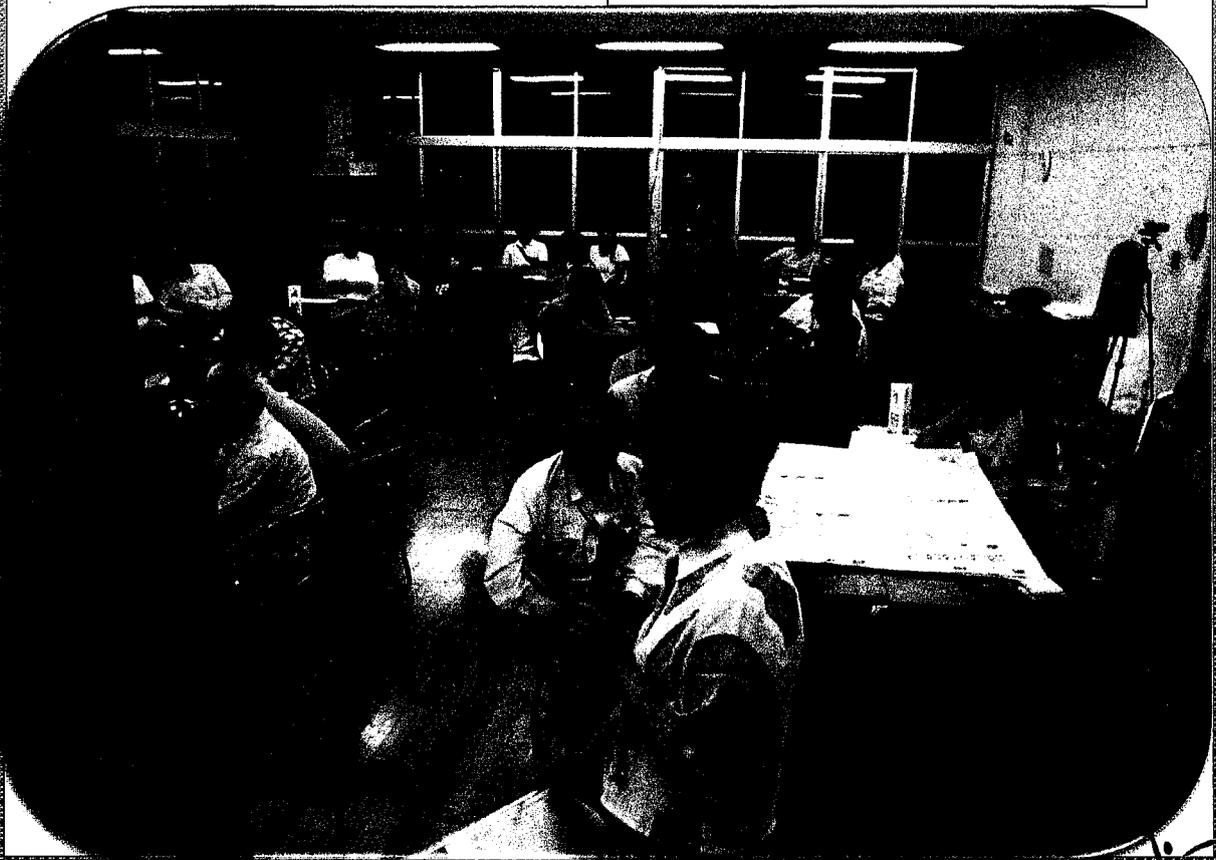
住民ワークショップ



話し合いに参加する



思いを伝える



住民ワークショップ

住民同士の出会いの場である

誰がどのようなことをしているか知る場である

なにをやるべきか
やりたいことが見えてくる場である

アイデアの集約の場である

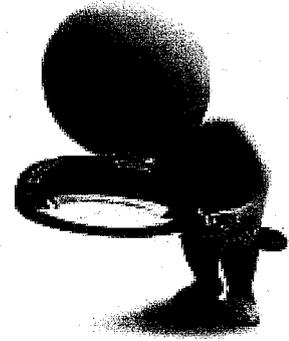
新しいリーダーが生まれる場である

養われる3つの目

現実を直視する目

過去を振り返る目

未来を見通す目



この目がないと解決策は生まれない
手が打てない!

主体性＝住民が考えること

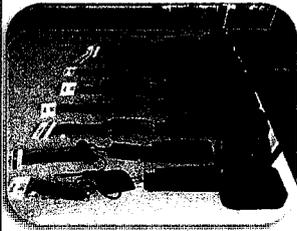
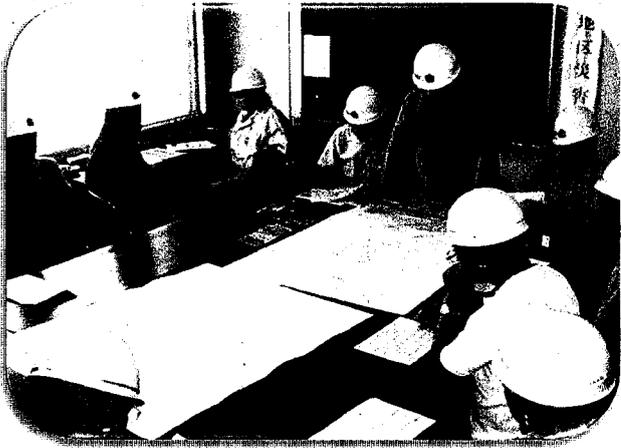
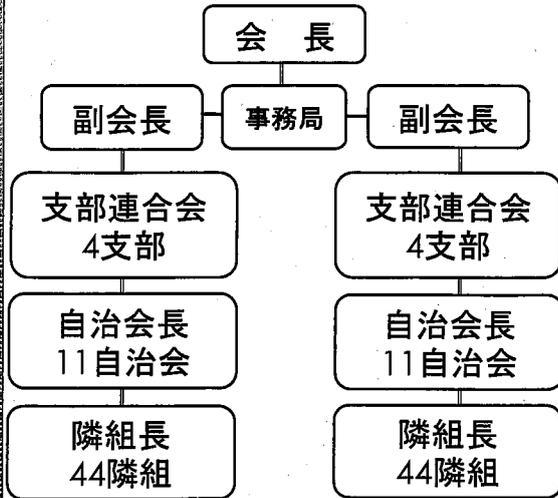
現状の危機感や将来の夢を共有

住民が、地域について話し合う

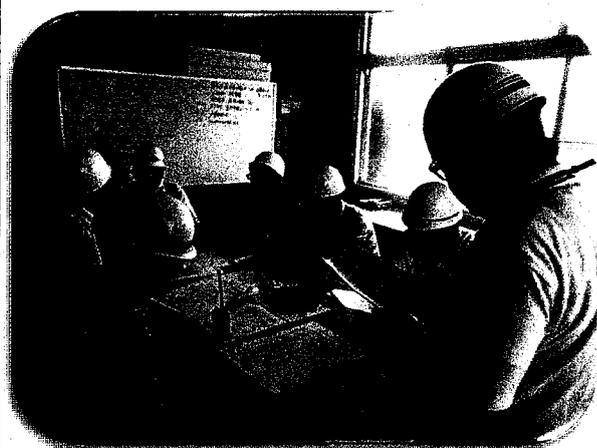
住民が、カネの使い道を考える

協働は必要に応じて

自主防災



自主防災



要援護者サポーター

登録者数：28名

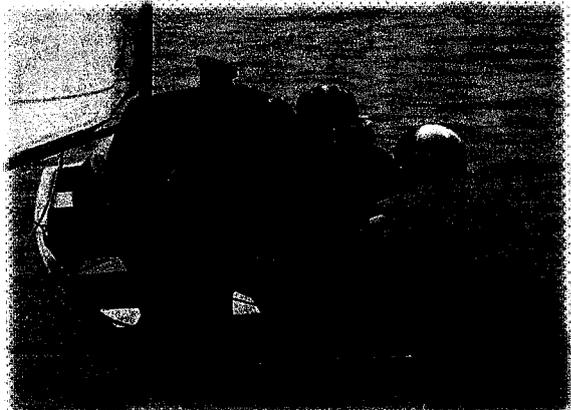
- 日中サポーター：40名
（ボランティア会）
安否確認や声掛け
- 夜間・休日サポーター56名
（隣組やご近所）
安否確認・災害時対応



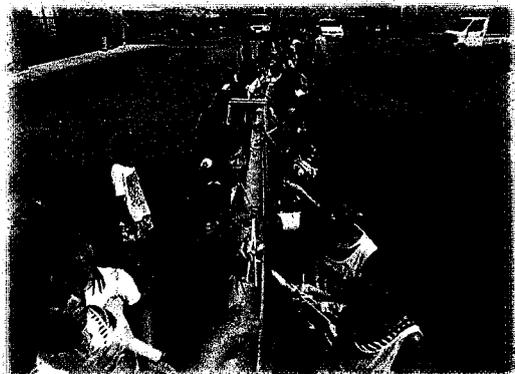
産直事業



わんぱくキッズスクール



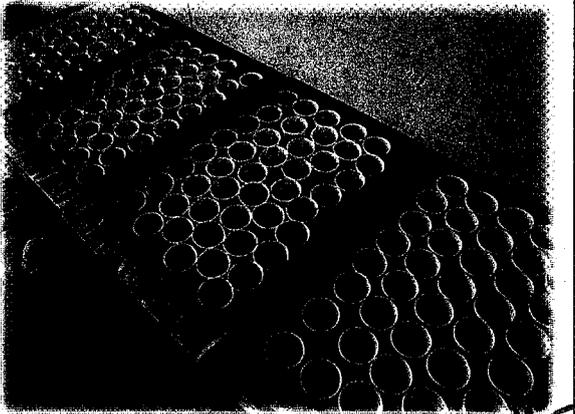
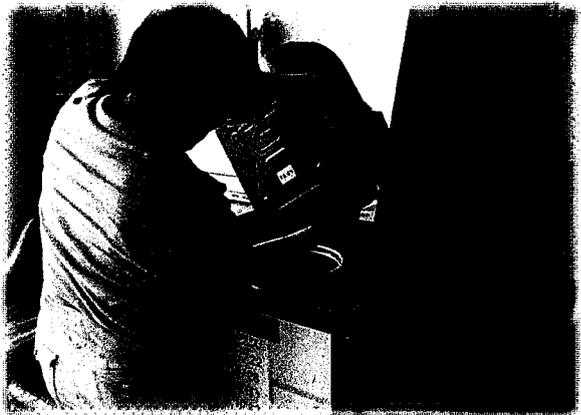
放課後学童クラブ



中学生ボランティア育成



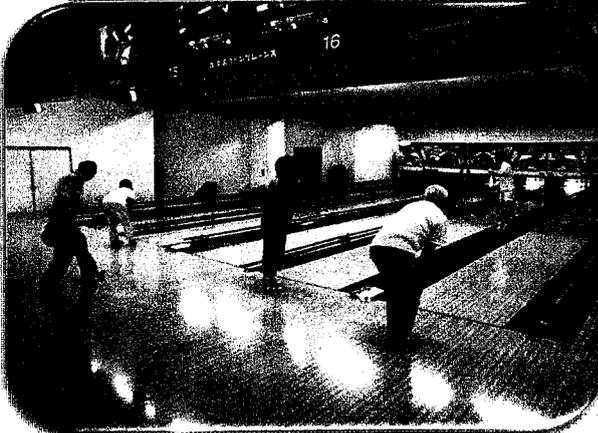
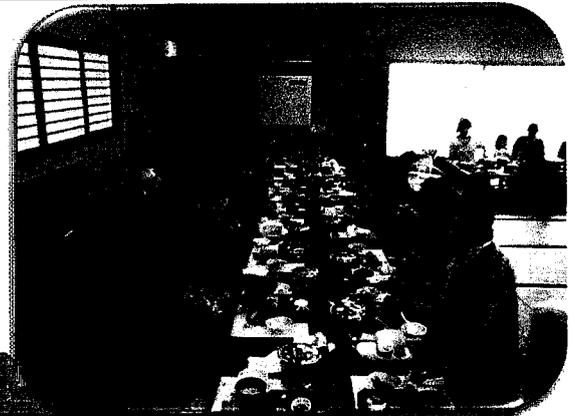
環境保全活動



緑化推進



生涯学習「よしじま燦燦塾」



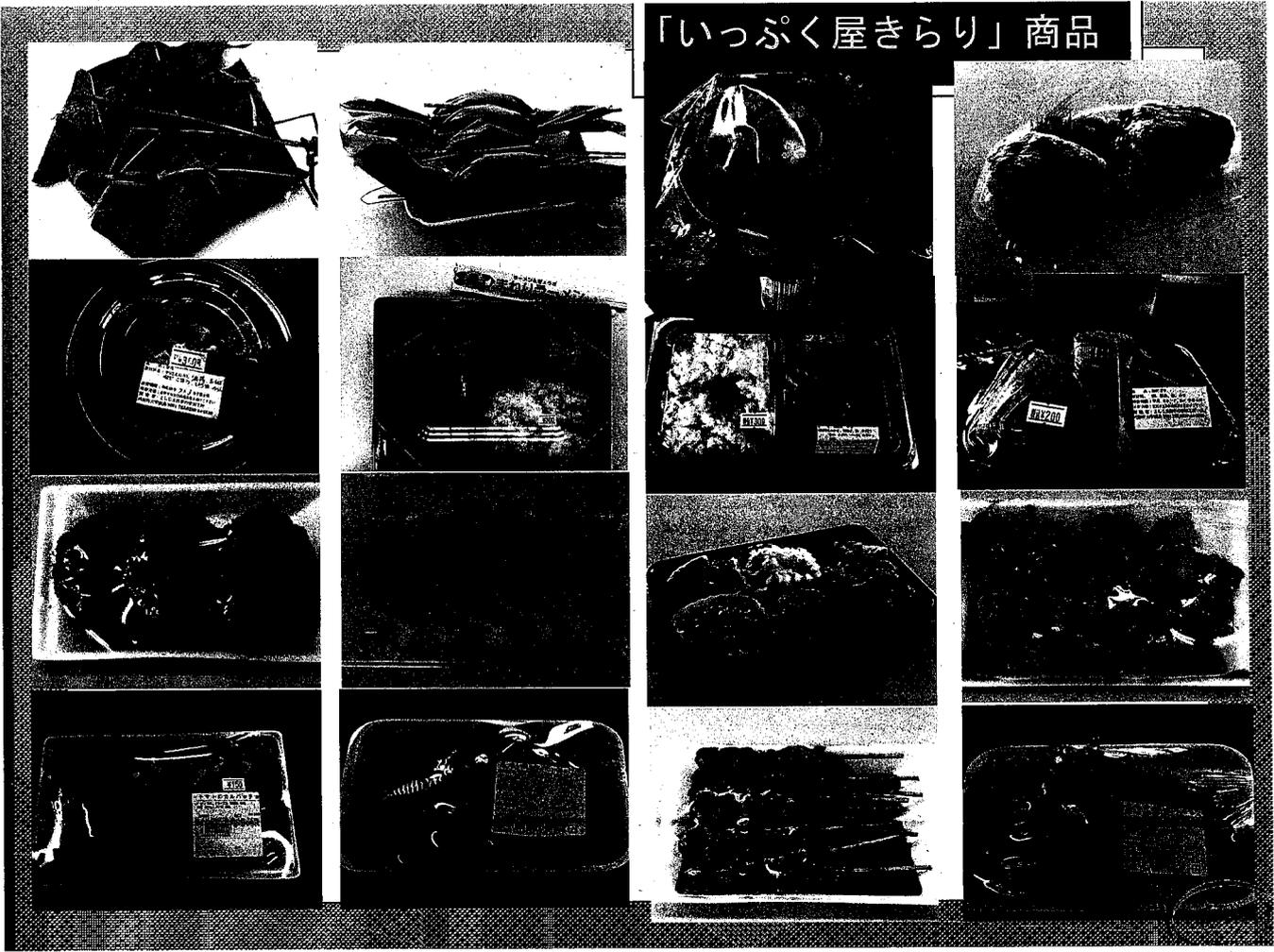
ふれあいサロン



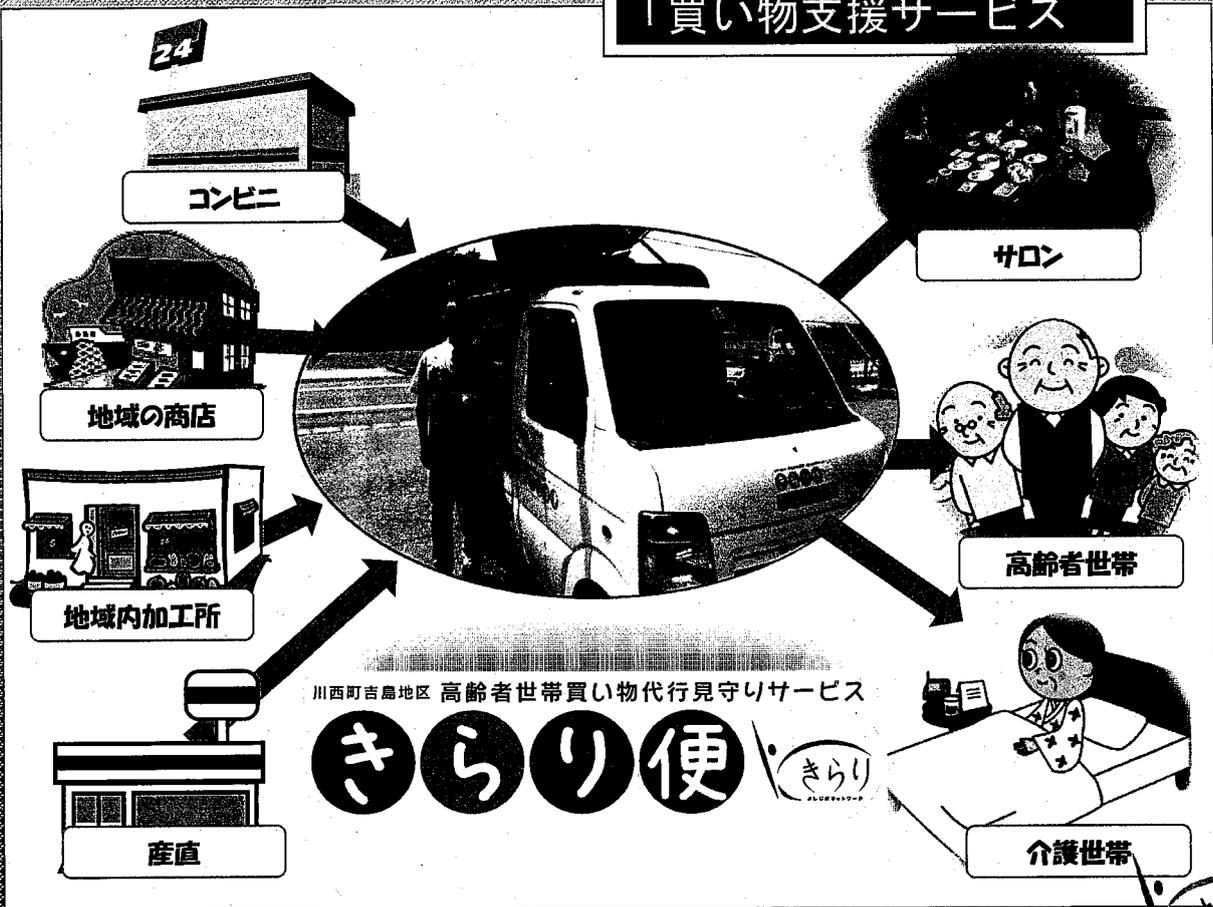
食と交流



「いっぷく屋きらり」商品



「買い物支援サービス」



きらり便の商品



6月 電話 44-2840

注文受付日 毎週火曜日・木曜日 休店日 毎週水曜日・金曜日 午後3時~5時
午前10時~午後4時

魚屋魚店・寒河江魚店・マルハヤシかんの

1 鮮魚盛り (塩漬切身) 500円	2 一本づつ小魚 280円	3 鮮魚盛り (塩漬切身) 420円
4 トロアノド 700円	5 65cc 480円	6 100g 400円
7 80cc 198円		

あさずめお肉

8 80cc 730円	9 300cc 480円	10 100g 100円
-------------	--------------	--------------

あさずめ野菜・くだもの

11 88円	12 168円	13 250円	14 250円	15 25円	16 120円
--------	---------	---------	---------	--------	---------

魚屋さんのお惣菜

17 80円	18 500円	19 250円	20 350円
--------	---------	---------	---------

食料雑貨コーナー

21 17 100円	22 17 100円	23 200円	24 128円	25 64円
26 199円	27 245円	28 548円	29 198円	30 360円
31 238円	32 76円	33 164円	34 308円	35 43円
36 238円	37 298円	38 298円	39 400円	40 160円
41 368円	42 298円	43 168円	44 105円	45 158円
46 90円	47 148円	48 148円	49 165円	50 188円
51 168円				

きらり便と商店

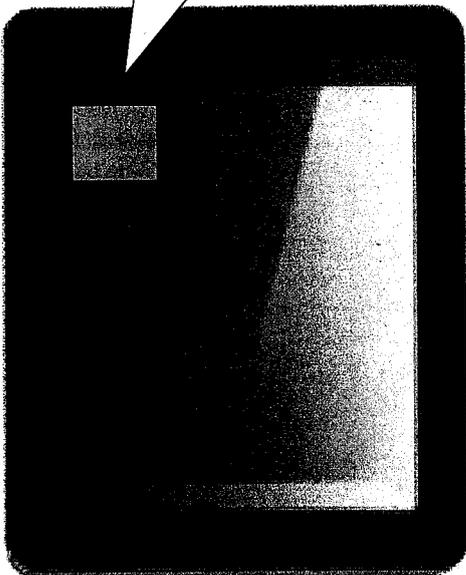


きらり便と高齢者



ICTを活用し
コミュニケーションを補完

アプリに似せたweb
アイコンを配置



ヒアリングをもとに機能を絞込み、
シンプルなUIを想定



6次産業への取組み



きれい加工研究所

グリーンツーリズム

加工品開発

農家レストラン・産直

再チャレンジ塾



青年活動

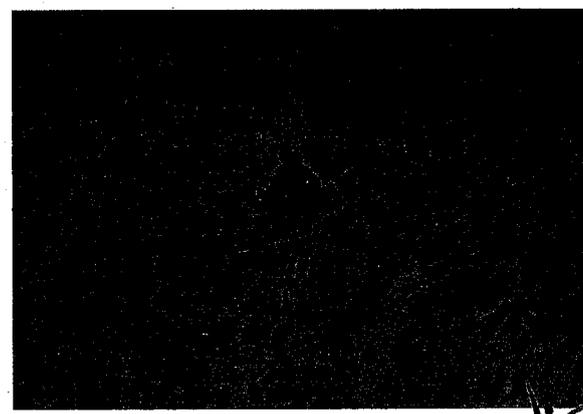
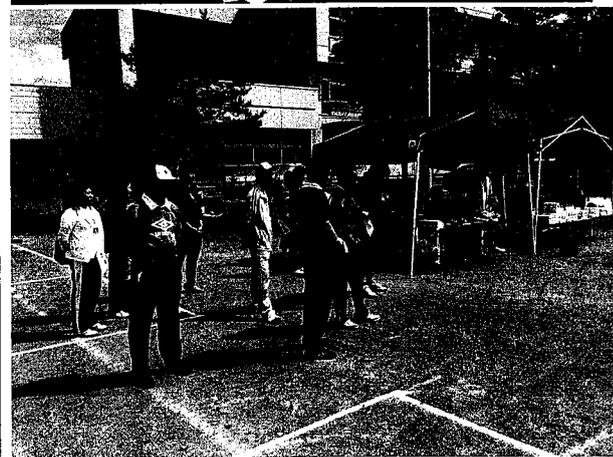


友 s QOO L ve

メンバー 17人
サポーター 19人
(地区内外、町外、大学生他)
合計36名
(女14人、男22人)



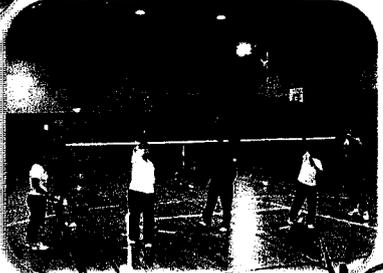
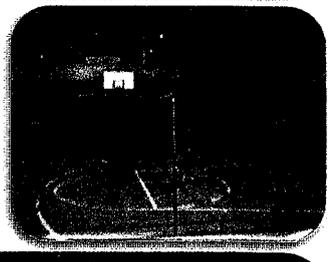
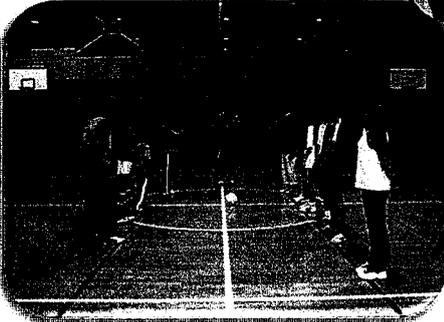
地域での出番



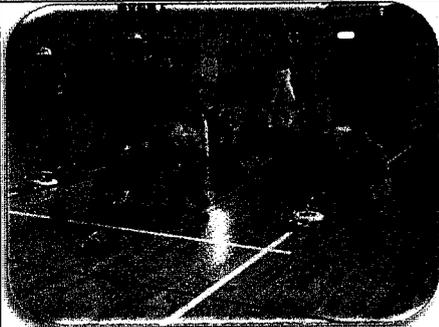
風きらり



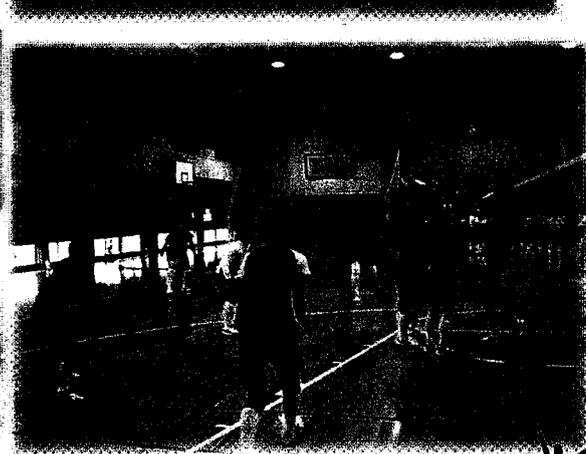
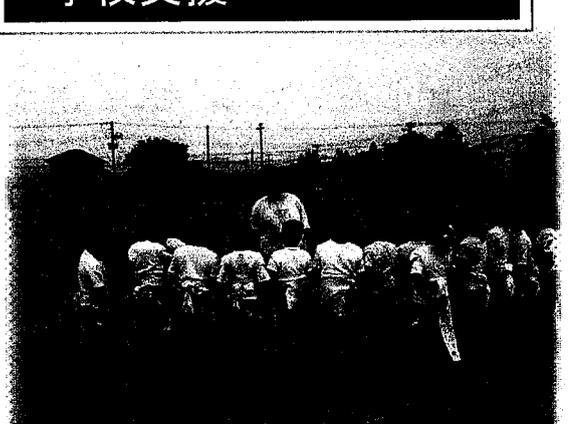
マイマイスポーツクラブ



マイマイスポーツクラブ



学校支援



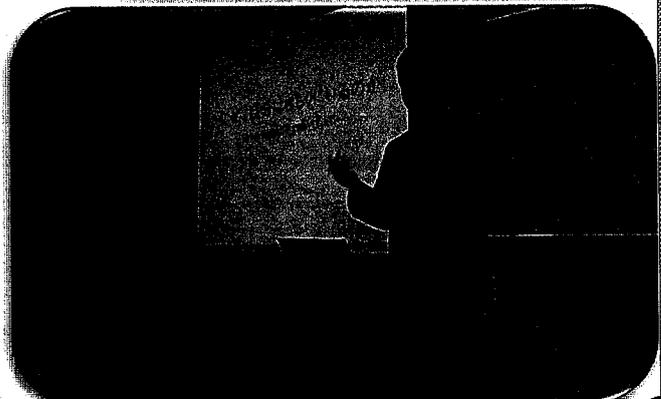
学校ボランティア



学びたいことを学ぶ



入れたら出す循環



人づくり

「人づくり」がなかなか進まない理由

人材育成の基本方針、育成プログラムがない。
(「人づくり」が計画化されていない。)

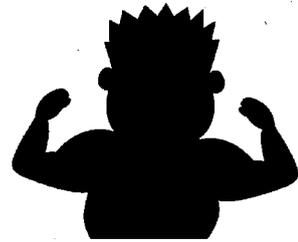
人材育成が「若者育成」であるとのカン違い。

研修コスト

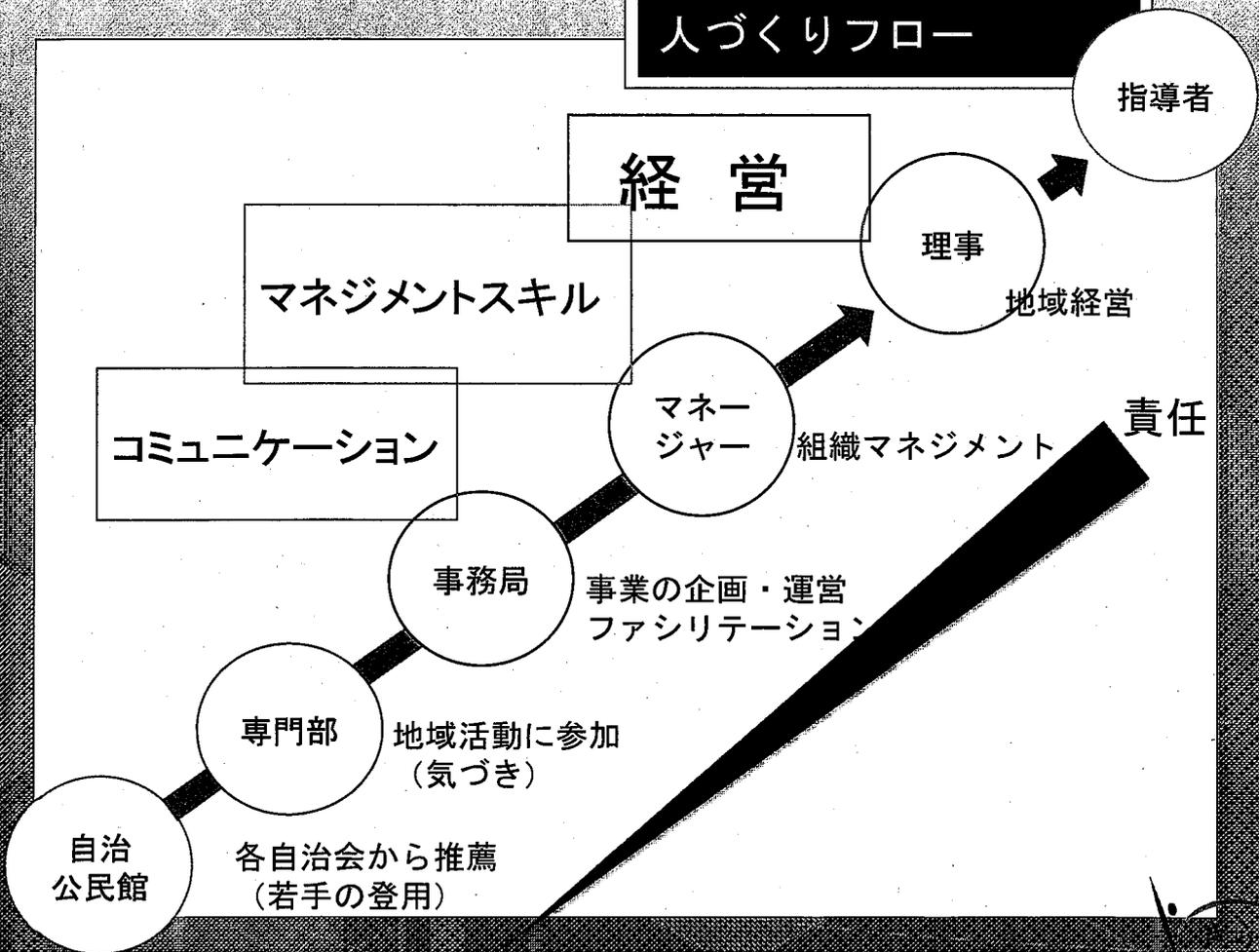
人づくり

ステージに合わせた人の出番と鍛え方

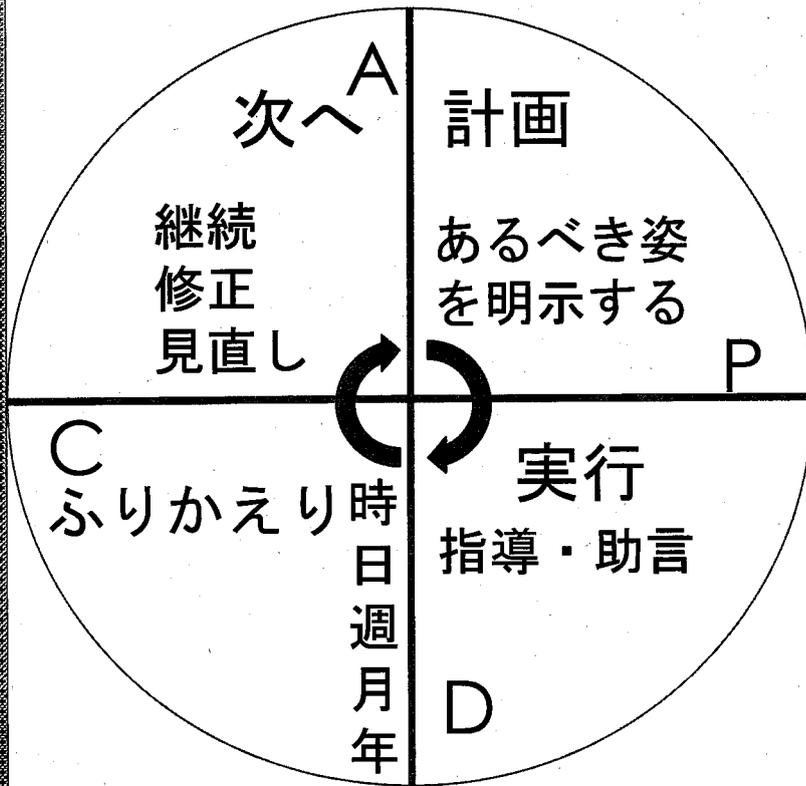
人は課題を抱えながらも、時代のステージを輝いて生きたい。



人づくりフロー



「魔法のサイクル」



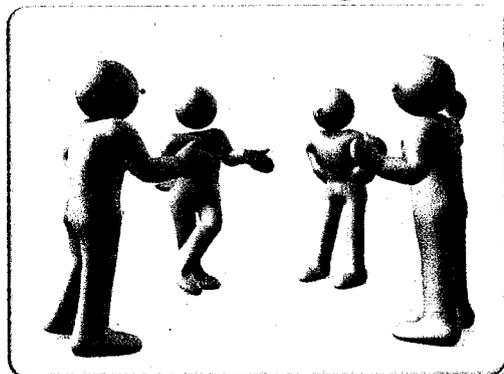
チェックリスト
チェックする人
目標と現状の差
対策を立てる

事業の組立

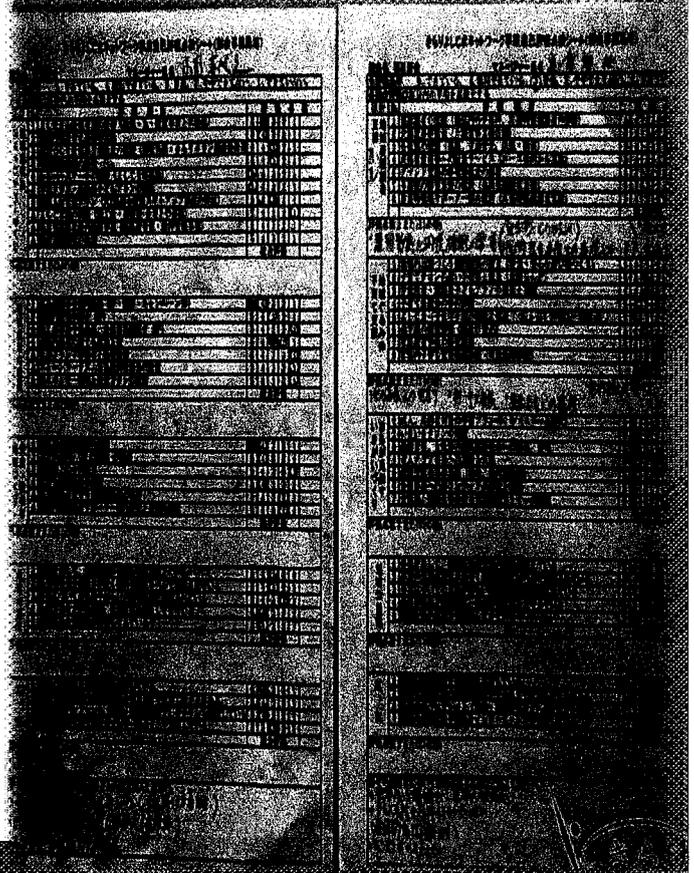
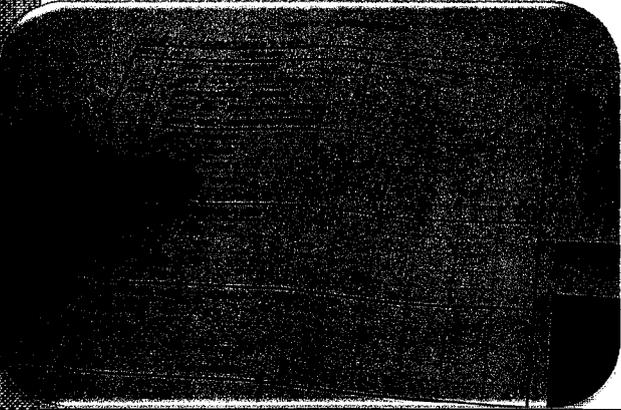
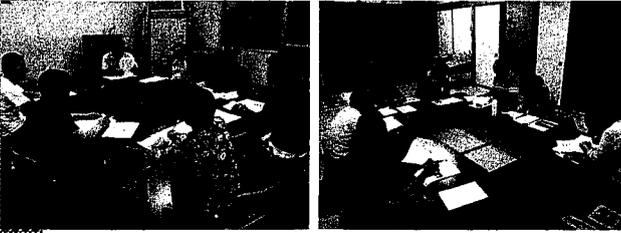
企画の段階
からわくわく
ドキドキ

自分も参加者
も思いきい
楽しむ

みんな
でわいわい
ふいかえり



ふりかえりと自己評価



わかるとできる

「わかる」 = 理解する ⇒ 知識となる

「できる」 = 実行する ⇒ 能力となる



人が生まれる仕掛け

- 活動の中から人が生まれる仕掛け
- 幼少期から地域と関わるストーリー
- “もの”ではなく“人”に投資しよう
- 活動に学びを取り入れ地元を愛する人に鍛え、地域の中で自立させる

住民が自らが仲間を募り、つながり、活動できる
コミュニティそのものが受け皿となること

地域づくりの思考

地域づくりは「社会起業家的思考」で
取り組むことが大事

地域や住民の「利益の最大化」を考える

参加～共感～共有～確認～拡散

結局は・・・。

地域づくりのための手法は様々あるが
要は、「どうありたいか」
そのために「なにがしたいか」である。

自分が感じるものを大事にし、思う課題に対して真摯
に向き合い、学び勇気をもって実践すること

やれば変わる。やらなくても今までのまま。
あるいは今まで以下。

地域づくりの当事者はそこに住む人なのだ

<地域概況>

川西町は、山形県南部のほぼ中央に位置し、約4分の1が平野部、約4分の3が丘陵地であり、H24年度の年間降雪量は849.0cmと雪国そのもの。

本町を訪れたイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが、「アジアのアルカディア(桃源郷)」と絶賛した恵まれた大地で生産された米、またその米を原料とした日本酒、さらに米沢牛が特産品であり、日本一のダリヤ園を有する。

<人口(うち吉島地区)>

16,854人(2,696人)

<高齢化率(うち吉島地区)>

○ 65歳以上 29.7%(30.6%)

○ 75歳以上 18.1%(19.4%)